

第5節 中部の豊かな自然環境、歴史、文化などを活かした地域づくり、観光振興

1. 目指すべき方向の視点

(1) 豊かな自然環境を保全する必要性

中部地方はアルプス山系を源とする大河川に形成された肥沃な平野が広がり、大都市圏にあって豊かな自然環境を残す伊勢湾があり、また、太平洋岸のなだらかな海岸線や美しいリアス式海岸などダイナミックかつ変化に富んだ豊かな自然に育まれた地域です。その豊かな自然も、戦後の急速な都市化の進展や自然の脅威から生命や財産を守ることを主眼とした社会資本整備などにより、生態系の崩壊及び美しい景観の喪失といった事態を招いてきました。一方では、地球レベルでの環境問題が顕在化し、破壊された自然を復元し、次代に繋いでいくことが重要との認識が高まっており、広大な自然を有し、豊かな自然の恩恵を享受してきた中部地方にとって、自然と共生した地域づくりのあり方が問われています。

また、大量生産、大量消費の社会経済活動や生活様式により、膨大な廃棄物の排出や地球温暖化が大きな問題となっています。そのため資源・エネルギーの循環利用など効率的に利用によって、環境への負荷を軽減する社会を形成することが求められています。

(2) 自然環境、歴史、文化などを活かし地域づくりを進める必要性

これまで中部地方の豊かな自然は、その地域に暮らす住民により支えられてきました。しかし、とりわけ自然環境の根幹となる水源地域においては、過疎化と高齢化、林業の衰退などにより、森林の維持管理が十分行えなくなりつつあり、持続可能な森林運営のあり方が求められています。また、農山漁村地域においては高規格幹線道路の整備や高度情報通信社会の到来により、文化的な生活を享受できるようになった反面、地域らしさの喪失が懸念されています。

そのため、地域固有の歴史・文化や生活の良さを見直し、その良さに共感を覚えた地域出身者や都市生活者が生活の場として選択したくなる地域としていくことが重要です。

(3) 観光振興の必要性

中部は、豊かな自然環境と風土に育まれた個性的な歴史や文化が各地でみられ、それを活用した交流・観光のポテンシャルの高い地域でもあります。今後、人口減少の時代を迎え交流による地域活力の向上が期待される中で、観光資源を効果的に活用し地域活力を向上させることが必要となります。

2. わたしたちの目指す地域像

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 美しい山、川、海、里を守り地球にやさしい地域・ 自然や歴史、文化を大切にすることで、多くの人とのふれあいが生まれる地域・ 暮らしの豊かさを誇れる農山漁村地域 |
|--|

[地域の声]

- ・ 資源を大事に守り育てながら、この資源を都会の人と共有していきたい。(ビジョン討論会高山会場)
- ・ 周囲の自然環境に調和したやさしい道づくりや地域づくりを目指すことが大切だ。(ビジョン討論会伊勢会場)

- ・ 積極的に CO₂ の削減など環境への取り組みをしていくべきである。(ビジョン討論会名古屋会場)
- ・ 歴史を見つめ直し、特色を活かした地域づくりを進めていくべき。(ビジョン討論会伊勢会場)
- ・ 地域に埋もれている豊かな資源をいかに上手く活用して、訪れた人にPRしていく。(ビジョン討論会名古屋会場)

3. 地域像を実現するための具体的な目標

目標1 水質・水量改善を図り、良好な水環境を保全・回復します

(目標)

多様な生態系を育み、人々の心にうるおいと安らぎを与える森から海につながる豊かで美しい清流の回復を目指します。

[地域の声]

- ・ 貴重な水の確保という意味では、ダムの役割は重要。(まんなか懇談会)
- ・ 下水道、合併浄化槽¹の推進により河川に清流を取り戻すべきだ。(ビジョン討論会)
- ・ 安倍川がいつまでもきれいであるように、行政と一体となって地域づくりを目指したい。(ビジョン討論会静岡会場)
- ・ 川を管理する行政同士の連携を強化してほしい。(ビジョン討論会岐阜会場)

[具体的な施策および主要事業例]

- ・ 河川事業等により、汚泥の浚渫、浄化施設の整備、浄化用水の導入などによる、水質、水量改善の強化推進と非特定汚染源対策を図ります。
- ・ 気象変動に応じた利水者への利水安全度の向上を図るとともに、動植物の生息・生育環境、景観、水質等を踏まえた必要流量を確保するため、ダムなどの建設を推進します。
- ・ 閉鎖性水域である伊勢湾の水底質改善を図るため、海域環境創造・自然再生事業(覆砂²)を実施します。
- ・ 水環境改善のため、下水道の普及促進に努めると共に高度処理の導入を図ります。

¹ 合併浄化槽：し尿だけでなく台所や風呂などの生活雑排水も一緒に処理する浄化槽。下水道のない山間部などではきわめて有効とされる。

² 覆砂：海底に堆積した汚泥を良質な砂で覆うことにより、栄養塩類などの溶出を抑制して水質を改善し、生態系の回復を促進する方法。

目標2 自然環境の保全・再生・創出および森林管理を推進します

(目標)

河口域・沿岸域における干潟、藻場、ヨシ原の保全再生、砂浜の保全回復、河川における多自然化や河畔林の整備、ダム周辺の山林保全措置制度の活用などで森林の保全創出など地域固有の生物多様性の確保につとめ、豊かな自然環境を再生します。山地から海までの土砂管理についてダムの堆砂対策のあり方等を検討し、土砂移動の連続性確保のため必要な土砂管理対策の具体化を図ります。都市部においては、将来的な人口減少に伴う市街地の再編を視野に入れて、河川、運河、緑地・農地などを骨格とするゆとりとうるおいのある空間として環境インフラを創出し、親自然型の居住空間を創出します。

[地域の声]

- ・ 経済発展と残すべき自然の明確な整理を。(まんなか懇談会)
- ・ 自然環境と調和したインフラ整備や、他の生物と共存できる場所づくりが必要。(ビジョン討論会伊勢会場)
- ・ 水辺の楽校は子どもたちが学んでいける場である。地域参加型の環境活動に行政も積極的に参加すべき。(ビジョン討論会静岡会場)
- ・ 森林育成・間伐など荒廃森林の整備を。(市町村長ヒアリング)

[具体的な施策および主要事業例]

- ・ 動植物の良好な生息・生育環境をできるだけ改變しないような多自然型川づくり⁴を推進します。
- ・ 都市山麓グリーンベルト整備事業など「緑の砂防」による自然共生型砂防事業を促進します。(静岡市 等)
- ・ 既設ダムの堆砂対策などの推進により河川の土砂移動の連続性を確保します。(ダム再開発 等)
- ・ 河川・海岸が連携した渚の創生事業の推進により、海域生物に配慮した海岸整備を推進します。
- ・ 河川の蛇行復元や河畔林の整備、湿地、干潟、ヨシ原の再生など自然再生事業を推進します。
- ・ 海域環境創造・自然再生事業(干潟・浅場造成)の実施による、伊勢湾をはじめとする良好な沿岸域環境を保全・再生します。
- ・ 自然環境を保全・創造し、海とのふれあいを促進する、ふるさと海岸整備事業などの海岸づくりを実施します。
- ・ 自然環境や生態系の保全、再生を図る公園・緑地の整備を推進します。
- ・ 伊勢湾沿岸域において、関係主体が相互に連携した環境修復を図ります。
- ・ 魚がのぼりやすい川づくり推進モデル事業を推進します。(吉田川 等)

¹ 干潟：潮がひくことで現れる遠浅の所。満潮時には冠水する。有機物が堆積しやすく、渡り鳥にとっては、越冬地または渡りの中継地として重要な場となる。

² 藻場：水底のうち、大型水生植物が群落状に生育する場所の総称。海草類の生育する「海草藻場」、コンブ類の生育する「海中林」などに分けられる。

³ ヨシ原：葦などが生い茂る湿地帯のこと。近年の研究では、多様な生物が生息する環境を形成していることと水質浄化作用を持つことが明らかになっている。

⁴ 多自然型川づくり：河川が本来有している生物の良好な生育環境に配慮し、あわせて美しい自然景観の保全や創出も行う川づくり。

- ・ 緊急山林保全一体型砂防事業により、山地の保全を図り土砂災害を防止します。(岐阜県八幡町 等)
- ・ ダム周辺の山林保全措置制度の活用により、貯水池上流域の公有地化を図ります。(徳山ダム 等)

目標3 温室効果ガス排出削減等の地球温暖化対策を推進します

(目標)

京都議定書において定めた、2008年から2012年までに温室効果ガスを6%排出削減する目標に対して、中部もその役割を積極的に果たしていきます。

【地域の声】

- ・ ヒートアイランド現象など足元から忍び寄ってくるような問題への視点も。(まんなか懇談会)
- ・ 中部は環境に負荷をかける自動車産業で潤ってきた面がある。CO₂の削減は中部が率先して推進すべき。(ビジョン討論会名古屋会場)

【具体的な施策および主要事業例】

- ・ 住宅や建築物の省エネルギー化など環境と共生した住まいづくりを推進します。
- ・ ダムの建設により、クリーンエネルギーとしての水力発電を推進します。(新丸山ダム等)
- ・ 道路交通の円滑化、自動車交通需要の調整・抑制を促進します。(交通円滑化の社会実験 等)
- ・ 地球温暖化対策としてクリーンエネルギー自動車を含む低公害車及び低排出ガスかつ低燃費車の導入を促進します。また、地域環境対策として自動車NO_x・PM法の排出基準適合車の導入を促進します。
- ・ 自然の叢智をテーマとした「愛・地球博」の成果を継承し、中部の各地域で環境負荷の少ない地域社会を展開します。
- ・ 風力などの新エネルギーの公共施設への導入を積極的に推進します。
- ・ 植栽については、地域性も考慮し、大気環境木を活用します。

目標4 循環型経済社会を構築します

(目標)

廃棄物を最小限に抑制し、資源・エネルギーを効率的に循環利用する社会経済活動や生活のしくみをつくることで、廃棄物処分場の軽減や持続可能な地域形成を目指します。

【地域の声】

- ・ 地産地消や持続可能な循環型社会づくりが必要。(ビジョン討論会浜松会場)
- ・ 100年、200年先の国土を考えたとき、山の木が金になる方策を真剣に考えるべき。(ビジョン討論会浜松会場)

¹ 自動車NO_x・PM法：ディーゼル車から排出される窒素酸化物(NO_x)の総量削減を目指した特別措置法。NO_xは一酸化窒素(NO)、二酸化窒素(NO₂)などの総称で、酸性雨や光化学大気汚染の原因物質となるが、同法では、NO_x汚染のひどい大都市(特定地域)を対象に、トラックやバスの使用者に対し、NO_x排出基準の不適合車の使用を制限している。

【具体的な施策および主要事業例】

- ・ リサイクルポート¹の実現をめざし、リサイクル拠点の形成および静脈物流ネットワークの構築を図ります。(三河港 等)
- ・ 廃棄物海面処分場を確保するため、廃棄物埋立護岸を整備します。(衣浦港 等)
- ・ 建設現場における間伐材などの利用及び、産業廃棄物について発生抑制、適正処理、リサイクルの推進を図ります。
- ・ 汚泥処理施設の整備により、下水汚泥等の有効利用を促進します。

目標5 農山漁村地域の魅力を向上します

(目標)

森林管理を担う中山間地域をはじめ農山漁村地域において、働き住み続けられる環境づくりを進め、永住地として選択可能な魅力を高めていきます。

【地域の声】

- ・ 都市との交流連携やインフラ整備等による農村活性化を。(まんなか懇談会)
- ・ 条件不利地域の山間地域に対してどういう対処方針を持つのかを明確にすべき。(ビジョン討論会豊橋会場)
- ・ 安心して安全に通行できるような道路整備が、地域住民にとってもそこを通過する観光客にとっても必要。(ビジョン討論会高山会場)
- ・ 医療機関へのアクセス道路整備を。(市町村長ヒアリング)

【具体的な施策および主要事業例】

- ・ 住民の意見やニーズをきめ細かく把握し、効率的な運行を図るデマンド交通システム²の導入を検討します。(社会実験 等)
- ・ 生活道路の整備による生活圏域の拡大と生活の利便性を向上します。
- ・ 住宅、下水道などの生活基盤の整備を推進します。
- ・ ラーニングバケーション³を通じてグリーンツーリズム⁴を推進します。

目標6 生活圏域や流域の連携を強化します

(目標)

市町村の合併や広域連携事業について積極的に支援するとともに、道の駅などの整備により地域の連携交流を促進します。
水循環機能の回復に対して水源地域と都市との一体的な取り組みを進めるために、流域の交流ネットワークの構築を推進します。

【地域の声】

- ・ 都市の人と農村部の人、下流の人と上流の人の交流を積極的に推進することが大事。(ビジョン討論会高山会場)

¹ リサイクルポート：広域的な静脈(リサイクル)物流ネットワークの拠点となる港湾のことで、総合静脈物流拠点港と呼ばれる。2002年度の国土交通省の重点施策に掲げられており、平成14年の一次指定として室蘭港・苫小牧港、東京港、神戸港、北九州港の四カ所が、さらに平成15年には二次指定として三河港、八戸港、姫川港等13港湾がこれに指定された。

² デマンド交通システム：バスなどの公共交通サービスのあり方の1つ。時刻表のうち、利用者のいない便を運休にすることでコスト削減を目指す。

³ ラーニングバケーション：農業体験や自然観察などの体験学習を取り入れた余暇の形態。

⁴ グリーンツーリズム：都市の住民が自然の豊かな農山漁村で、自然や文化をはじめ、地元の人たちとの交流を楽しむ滞在型の余暇活動。

- ・ 市町村合併を推進する地域幹線道路の整備を。(市町村長ヒアリング)
- ・ 自然環境の保全と活用を目指した河川流域市町村の連携の推進を。(市町村長ヒアリング)

【具体的な施策および主要事業例】

- ・ 水辺プラザなどの交流の場を整備します。
- ・ 都市と農山村などの上下流交流など流域単位の地域づくりシステムを構築します。
- ・ 地域間の交流連携の向上を図るため、地域の幹線道路の整備を推進します。

目標7 自然環境・歴史・文化資源を再生・活用した魅力ある地域づくりを進めます

(目標)

豊かな自然環境、優れた地域固有のまちなみや景観を次世代に引き継ぐとともに、そうした資源を地域活力の重要な要素として付加価値を高めていきます。

【地域の声】

- ・ 地域の歴史や文化こそ追いつかれないもの。自分たちが誇りを持てるように活かす努力を。(まんなか懇談会)
- ・ 地域資源(歴史、文化など)を再認識し、それらを活かした個性あるオンリーワンのまちづくりを。(ビジョン討論会静岡会場)
- ・ 地域の人々がいるいろいろな地域資源、自然環境、歴史、文化などを再認識し、活用しながら未来に繋げていくことを地域づくりに結びつけることが重要。(ビジョン討論会浜松会場)

【具体的な施策および主要事業例】

- ・ 水辺のまちづくりや港を活かしたまちづくりなど個性あふれる地域づくりに貢献する社会資本整備を推進します。
- ・ 固有の街並みや景観を活かしたまちづくり・すまいづくりを推進します。(岐阜県古川町 等)
- ・ 地域活性化事業などの地域づくりモデル的实践を支援します。(東紀州活性化事業:熊野古道)
- ・ 歴史・文化等木曾三川が育んだ環境資源を活かした公園を整備します。(国営木曾三川公園)

目標8 もう一度訪れたいと思う魅力ある地域づくりを進めます

(目標)

観光資源の活用や地域のもてなしの心を醸成することで、リピーター率の高い地域を目指します。

地域に埋もれている観光資源を発掘し、観光交流による地域の活性化を図ります。

【地域の声】

- ・ 観光においては、リピーターを作ることが重要。もう一度行きたいと思う魅力ある地域づくりを。(ビジョン討論会伊勢会場)
- ・ 地域の魅力を再生し、もう一回行きたいと思う魅力ある地域づくりが必要。(ビジョン討論会四日市会場)
- ・ 旅の後に、お客からお礼状が貰えるような観光整備が必要。(ビジョン討論会伊勢会

場)

- ・ 水と温泉等地域資源を活かした観光交流による地域活性化を。(市町村長ヒアリング)

[具体的な施策および主要事業例]

- ・ 官民一体となったキャンペーンを推進し、外国人旅行客の増加に向けた誘致を促進します。
- ・ 中部の歴史あるモノづくり産業を活かした産業観光を、情報発信や標識設置などにより支援します。
- ・ 「愛・地球博」、「2004年 ITS世界会議」、「2004浜名湖花博」、「2005 FISA世界ボート選手権」、「花フェスタ2005」等のイベントを支援し、観光交流を推進します。
- ・ 観光交流空間づくりモデル事業を推進します。
- ・ 「観光なんでも鑑定団」事業により、観光資源の発掘、鑑定評価等を行い、地域の観光振興に対する主体的な取組を支援します。
- ・ 観光拠点への案内を強化します。
- ・ 社会基盤(ダム・橋梁・建築物など)そのものの観光拠点としての活用を図ります。
- ・ 地域の歴史や観光情報の発信拠点として道の駅などの事業を推進します。

【当面取り組む主要なプロジェクト】

伊勢湾再生プロジェクト

(目標 1、2 の達成を目指して)

伊勢湾などの閉鎖性水域ならびに木曾川・揖斐川といった流入河川の自然再生と水質浄化は自然と共生する社会を実現するうえでその基盤となるものであり、伊勢湾や河川の水質を積極的に回復、保全しながら、干潟やヨシ原を保全・再生、干潟に集まる多様な生物など自然と調和する水辺環境を再生していくことで、伊勢湾地域の環境改善を図ります。

<アウトカム指標(参考例)>

- ・ 伊勢湾及び流入河川における環境基準の達成
- ・ 自然再生水辺割合の増加
- ・ 海辺に親しめる水際線の割合の向上 等

エコ・中部プロジェクト

(目標 3、4 の達成を目指して)

循環型社会を形成し、地球環境保全を推進するため、温室効果ガス排出量の削減や、リサイクル拠点の形成、静脈物流ネットワークの構築、間伐材の利用促進、公共土木工事の建設副産物の再資源化、縮減等を図ります。
また、住宅、建築物の屋上緑化、自然・未利用エネルギーの活用、S I方式の導入等による省エネルギー化の推進を図ります。

<アウトカム指標(参考例)>

- ・ 公共土木工事の建設副産物等の再資源化、縮減率の向上
- ・ 住宅、建築物の省エネルギー化率の向上
- ・ 自動車 CO2 排出削減量の向上 等

歴史・文化・自然を活かした中部観光交流拡大プロジェクト

(目標 2、5、6、7、8 の達成を目指して)

中山道・熊野古道といった地域固有の歴史・文化資源を発掘・活用し、歴史的街なみの整備や国内外への情報発信、観光モデルルートの策定、回遊性のある歩行者ネットワークの形成やサインシステムの整備等により、各地において観光交流空間を形成します。(日本ライン広域地域、伊勢志摩地区、神岡町、古川町、等)
また、富士山など中部の特色である豊かな自然を保全・再生・創出するとともに、自然を活用した河川環境・公園・緑地等の整備を推進し、人々が自然とふれあい、スポーツなど多様な活動・交流を展開することのできる拠点等を形成します。(国営木曾三川公園、伊勢湾等沿岸域、木曾三川の自然再生、浜名湖花博等)
さらに、「中部の観光を考える百人委員会」¹などによる官民の連携により、中部の自然や産業といった観光資源を海外にPRするとともに、観光モデルルートの作成、外国人旅行者の訪日を促進するため外国語表示の案内板等の受け入れ態勢の整備など、中部の特色を生かした観光交流の拡大を図ります。

<アウトカム指標(参考例)>

- ・ 水辺空間利用者数の増加
- ・ 訪日外国人旅行者数の増加
- ・ 管内主要観光地の入込客数の増加 等

¹ 「中部の観光を考える百人委員会」：中部地域の国際観光及び国内観光、産業文化観光の振興を図るため、民間の方々を中心に幅広い関係者が広範囲に話し合い、必要な方策について検討や提言を行うとともに、情報交換を行える場として、平成 12 年 3 月に設立した会議。